# 平成 22 年度　第 1 回運営会議　議事録（概要版）

**日時**：2010 年 7 月 9 日（金）10:00～12:00
**場所**：大阪府庁新別館北館　5 階共用会議室 1

**（出席）敬称略**

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科　教授　増田　昇（委員長就任）
大阪大学大学院工学研究科　教授　　澤木　昌典
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科　准教授　　下村　泰彦
大阪市立大学大学院工学研究科　准教授　　嘉名　光市
大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）　特任研究員　　弘本　由香里
元読売新聞編集委員　　清野　博子
泉佐野観光ボランティア協会　　吉野　勝
うみべの森を育てる会　　西台　幸子

**（オブザーバー）**

大輪会
パーククラブ会長　殿元
パーククラブ副会長　杉本

◆傍聴者
・報道関係者　3 社（資料のみ配布）
・一般　　2 名

**◆進行**
・資料の確認
・会議の公開について
・大阪府岸和田土木事務所長挨拶
・出席者紹介

**◆議事**

**〇報告案件について**

事務局から「平成 22 年度 運営会議 開催計画」、「春のイベント」、「平成 22 年度パークレンジャー養成講座の実施状況」、「今年度の工事」、「大輪会からの支援」について報告した。

**主な意見**

・開園前にイベントを行う際は、今後のために参加者からの意見や要望に関するアンケートをとり、データを蓄積していくべき。
・パークレンジャー養成講座において、受講生が 10 名近く辞退されていることについては、今後、公平性を保ちながら、補充、採用できるしくみをつくっていきたい。この議案については、後日検討する機会がある。そのときに詳しく議論したい。

〇協議案件について

事務局から「パークセンターの機能」、「コラボレーション区域の検討イメージ」について説明した。

主な意見

＜パークセンターの機能について＞

・泉佐野丘陵緑地のパークセンターには、公園の維持管理を行う「管理運営機能」と来園者を受け入れて案内する等「ビジターセンターとしての機能」の両方が必要だろう。
・パークセンター内は、間仕切りがないオープンデスクとする方がよい。そうすることで来園者が職員に声をかけやすくなると思う。
・ボランティアの活動スペースもオープンデスクとしておき、来園者と交流できる空間にすることが望ましい。
・移動式間仕切りによって可変的な部屋割りができる施設がよい。
・パーククラブの活動が充実してくれば、情報収集や展示する機会がでてくる。公園展示、公園紹介する機能やスペースも必要である。
・来園者向けの機能をどのように盛り込むかを議論する必要がある。休憩と展示の一体化等、機能を一体化できる部分も考えていきたい。
・泉佐野丘陵緑地は「府民と行政がコラボレーションしながらつくる」ということが大きな特徴である。その特徴を前面に押し出したパークセンターでありたい。来園者向けの機能だけではなく、「つくる」ことを踏まえた機能も考えていく必要がある。
・小学校等が遠足で泉佐野丘陵緑地を利用できるよう、雨がしのげる屋根がある広い多目的スペースのような空間が必要である。
・今後、パーククラブがいろんな活動をしようと思えば、資機材を置く場所を確保する必要がある。
・前回から議論になっているが、シャワールームも必要である。
・泉佐野丘陵緑地は最終的に 25 万人くらいの利用者を目標としている。25 万人の利用者を達成するためには、ビジターセンターなどに訪れない自由利用者を計算に入れなければならない。しかし、泉佐野丘陵緑地は、できるだけビジターセンターに訪れてパーククラブや公園管理者等が行うプログラムの参加者が中心となる公園にしていきたい。そう考えると利用者数は目標を達成できないだろう。そのあたりをどう考えるかを今後に議論する必要がある。
・プログラムに参加しなくても、来園者が一人でも公園を楽しめるように、公園のエリアの特徴、各エリアで何が学べるのかを紹介するマップをつくり、それをビジターセンターに置いておく方法はある。
・パークセンターは仮設型とすべきか、構造（スケルトン）と中身（インフィル）を組み変える可変型とすべきかを今後、検討したい。
・パークセンターには、養成講座を行う機能も追加したい。養成講座をしているときは、一般利用の方との仕切りが必要である。
・パークセンターには、救護機能が必要である。

＜コラボレーション区域の検討イメージについて＞

・4 トントラックが通るルートして、幅員 3m の園路が計画されているが、公園内の市道を整備したときと同じにならないためにも、原則として極力土工を減らすよう努めたい。また、1.5～2m 以上の擁壁を発生させない等のルールを決めておきたい。
・調査をした上で整備を進めるということを公園のつくり方のルールの原則としたい。
・焦って短期間で整備するのではなく、調査に必要な時間や検討する時間を踏まえて、適正な工事の時

期や期間を設定すべきである。
・現在、園路のルートを検討しているが、園路だけではなく、同時に広場をどこに設けるかを議論していく必要がある。
・整備について、パークレンジャーの動き方に配慮いただきながら進めていただきたい。
・対岸からの景観に配慮しながらルート選定を行っていただきたい。

**〇合意形成について**

パーククラブ代表から「パーククラブの会則、年間活動計画」、事務局から「パーククラブと大阪府の覚書き」について説明した。

**＜パーククラブの会則、年間活動計画について＞**

・「府民へのサービス活動」と書くと府民に限るのかという議論がでる。府民より市民の方がよいのかもしれない。広い意味で市民といえば、泉佐野市に限らず捉えることができる。
・将来的にホームページや情報誌をつくる機会もでてくるため、広報や情報発信という項目を「活動」の中に示しておいた方がよい。
・4 条に「公園の理念を目指す」と言う意味を込めるかをパークレンジャーで検討いただきたい。
・専門部会で 5 名以上に限らなくてもよいというところも検討いただきたい。
・会計や監事の設置についても再度検討いただければと思う。
・15 条 2 項の「必要の都度臨時総会を開催することができる」とは、どのような時に誰が臨時総会を開くのかを記載をして置いた方がよい。
・今年度大阪府で業務を発注する際に、調査業務の中で「パークレンジャーの調査に対する支援」が入れられないかを検討いただきたい。
・すべてをカバー仕切れないかもしれないが、大阪府立大学から昆虫や水性動物についての講師を派遣することは検討したい。
・パーククラブの年間活動で、会員の研修活動として見学会を開催できないかを検討いただきたい。このときに交通費だけの支援を大阪府にお願いして、弁当などはパーククラブの方々に持参いただくという形ができないかを検討いただきたい。
・今日をもって、パークレンジャーはパーククラブ設立準備会からパーククラブになったということでよい。会則に入れる日付は本日以降であれば、いつでもよいのでパークレンジャーの方々で相談して決めていただきたい。

**＜パーククラブ代表の運営会議への参加について＞**

・パーククラブの運営会議への参加は 1 名となっているが、2 名とした方が良いのではないか。

**＜パーククラブと大阪府の覚書きについて＞**

・運営会議におけるパーククラブの出席は覚書きで 1 名となっているが、2 名の方がよい。
・覚書きの第 3 条「活動ルール」の 2 項、3 項には「甲の許可なく」という言葉を付け足したほうがよい。そうでなければ、棚田での活動や花の活動、出前講座等ができなくなってしまう。
・覚書き第 4 条 1 項において、「合意形成」は少し硬いので、「協議・調整すること」の方がよい。
・覚書き第 8 条については、「3 ヶ月前に疑義が生じなければ自動継続にする」等の文言があればよい。

＜その他＞

・パークレンジャーの外側に、少し緩やかな繋がりの中で活動を楽しめる層をつくっていこうという議論がこれまでにあった。その中で幅広い年齢層の人たちが参加できるようにしていけばよいのではないか。

・将来、パーククラブは活動に頻繁に参加する「コアメンバー」、「クラブメンバー」、と活動に参加する頻度は少ないが意欲を持っている「ビジターメンバー」ができてくるだろう。その「ビジターメンバー」において男女や年齢層同数の参加を目指していくことを考えていきたい。